

区連会 資料 4-1

令和 5 年 11 月 16 日

旭区連合自治会町内会長 各位
自治会町内会長 各位

旭区社会福祉協議会
事務局長 半田博之
旭区役所福祉保健課
福祉保健課長 石津 雄一郎

令和 5 年度旭区地域福祉保健計画推進研修・
旭区社協子ども支援研修について（御報告）

日頃より、第 4 期旭区地域福祉保健計画の推進に御協力いただき御礼申し上げます。

さて、令和 5 年 10 月 27 日（金）に「旭区地域福祉保健計画推進研修・旭区社協子ども支援研修」を実施いたしましたので、次のとおり御報告させていただきます。

1 概要

- (1) 実施日：令和 5 年 10 月 27 日（金）
- (2) 参加者数：137 名

2 実施内容

詳細は別添報告書のとおり

【問合せ先】

旭区社会福祉協議会（担当：村瀬、宮地、山田、杉山）

電話：392-1123 / FAX：392-0222

旭区役所福祉保健課（担当：伊藤、泉谷、岡田、小林）

電話：954-6143 / FAX：953-7713

令和5年度 旭区地域福祉保健計画推進研修・旭区社協子ども支援研修会 実施報告

日 時：令和5年10月27日（金）14：00～16：00

会 場：旭公会堂 ホール

主 催：旭区社会福祉協議会、旭区役所

参加者数：137名

内 容：

1. 旭区における子育ての現況

説 明：旭区役所こども家庭支援課 課長 河合 太一

◎区全体としては少子高齢化が進展しているが、乳幼児から青少年期の子育て世帯も多く居住している。

◎孤立、困窮、障害を要因として不適切な養育につながる可能性がある。

◎地域には現代の子育て世帯を取り巻く環境を知り、見守ることが期待されている。

2. 講演（テーマ：地域が子どもを育てる）

講 師：牧岡 英夫氏（共育ひろば主宰）

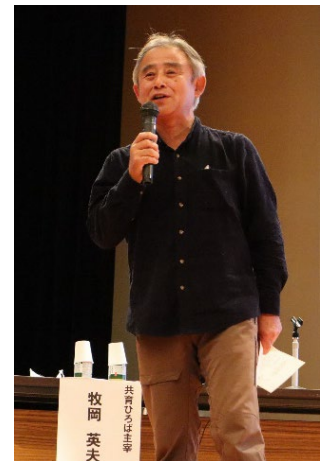
◎子どもは様々な人と関わる中で関係性の「線」を増やし成長する。しかし今、安心して失敗できる、できないと言える環境が少なくなりその「線」を増やし、伸ばすことが難しくなっている。

◎子ども達は常に「ちゃんとしていること」「できること」を求められている。ちゃんとしていることを求められない、安心して愚痴を言うことができる関係性が必要である。

◎程よい距離間での関係性を積み重ねられるのが地域の良さ。

子ども達を正したり支えるだけではなく、見守り気にかける緩やかな関係が大切である。

◎子どもだけではなく大人にとっても身近な地域の中での「線」を増やすことは、自身の健康にもつながると言われている。



3. 旭区内の子どもの居場所についての事例報告

1) 今宿小学校放課後自習室の取組について

今宿小学校 校長 島田 恒弘氏

今宿地区社会福祉協議会 会長代行 久保田 ゆみ子氏

今宿小学校放課後自習室 ボランティア 山路 一朗氏



◎学校がコロナ禍の休校期間中に在宅で過ごせない子ども達を緊急受入した際に、日頃から家庭の中に学習環境がない児童がいることに気がついた。地域の人と子ども達が交流しながら学習できる場をつくりたいと考えた。

◎自習室では「教える」ではなく「見守る」姿勢で関わっている。自由な雰囲気があり、子ども達がお互いに教え合ったり、遊びの中で学びを得たりしている。

- ◎子ども達と街で会っても自然と挨拶をかわせるような関係性になった。また、地域の大人も登下校時の見守りで気がついたことを話し合うようになった。
- ◎子どもたちにとって居心地の良い場を目指していきたい。地区社協としても子ども達のためにボランティア探しや活動資金の助成を通して活動を応援していきたい。

2) 「カレーハウス笹野台の取組について」

笹野台地区社会福祉協議会 事務局長 津久井 優子氏

笹野台地域ケアプラザ 地域活動交流コーディネーター 穂谷野 浩子氏



- ◎誰もが気軽に立ち寄れる居場所、「元気にしてた？」と挨拶をかわせる関係を広めたいとカレーハウスを始めた。
- ◎これまで交流のなかった住民との出会い、会う機会が減っていた人との再会や子ども達との「カレーつながり」ができたりと嬉しい変化があった。
- ◎活動を通して、新たな交流の場をつくり、地域への愛着を育み、緩やかな見守りを広げ、地域活動の連携も生まれている。こうしたことの一つひとつが笹野台地区の財産として積み重なっている。
- ◎子どもも大人もほっとできる居場所であり続けたい。そして、子ども達が大きくなった時に、この地域のことを好きだと思ってくれたり、カレーハウスのような居場所を自分でも作りたいたいと思ってくれれば嬉しい。

4. 講師まとめ

子ども達が行きたくなる、居心地の良い、安心できる場が地域の中にあることが大切。子どもとの信頼関係を築くには子どもから話をしたくなるまで待つ。何も言わずに見守ることが大切である。

また、子育て・子ども支援は地域だからできることもあるが、距離間を大切にしないといけないこともある。

安心できる環境の中で子どもが様々な人と交流することで伸びる「線」は、その関係がしっかり育まれることにより太くなる。成長の過程で一度途切れてもその「線」はなくなることはなく、大人になってからその線がまた太くなることもある。子どもと共に大人も地域の中に「線」を増やし、伸ばしていくことが出来ると、その地域も育ち、豊かになる。

アンケート結果（抜粋）

- 子ども達の成長に欠かせない「線」を伸ばしたり、太くする環境づくりに関わっていることを改めて感じる事ができました。
- カレーハウスは子ども達だけでなく、高齢者の方など誰でも参加できるところが良いと思いました。
- 自習室のボランティアなど自分にできることを探したい。今日をきっかけに少しずつやっていきたくて思いました。
- 保育園のお散歩のときに挨拶をしっかりするなど、地域の方に見守ってもらっていることを忘れずに過ごしていきたいです。
- （自分の）連合自治会でも、多世代が交流する場、居場所となる場づくりの検討をしているので今日の発表を役立てたいと思いました。
- 子ども時代の地域活動の経験が将来の地域づくりにもつながることがわかり、次世代を見据えた計画が大切なことがわかりました。